

NCGG/CAMD Seminar

Dr. Colin L. Masters

Laureate Professor of Neuroscience, The University of Melbourne
Executive Director, Mental Health Research Institute
Head of the Neurodegeneration Division, Florey Institute

Alzheimer's disease: a quantitative approach to its natural history

2017年9月12日（火）16時より

第1研究棟2階 大会議室

Masters 教授は老人斑の主成分がアミロイド β 蛋白であることを世界で初めて確定し (PNAS, 1985)、その後、アミロイド前駆体蛋白遺伝子のクローニングにも成功し (Nature 1987)、これまで長期に渡り、アルツハイマー病の基礎研究を牽引して来られました。現在は、世界最大のアルツハイマー病コホート研究の組織である Australian Imaging, Biomarker and Lifestyle Study of Aging (AIBL) の代表を務め、アルツハイマー病のバイオマーカー開発等に顕著な業績をあげておられます。この度、世界神経学会（京都）の招聘で来日された機会に NCGG での講演をお願い致しました。セミナーでは、アミロイドを中心としたアルツハイマー病の病態生理のほか、診断、予防、治療に関する最新の研究成果が紹介されると期待されます。皆様のご来場をお待ち致します。

国立長寿医療研究センター
認知症先進医療開発センター 柳澤